



みくびだより

発行 御首神社社務所

御挨拶

拝啓 向夏の候、皆様方に於かれましては、ご清栄のこととお喜び申し上げます。

初詣で賑わう元日、突然の揺れに大変驚きましたが、参拝者の混乱も目立った被害も無く安堵致しました。しかし震源地の能登半島を初め北陸各地の多大な被害を耳にするにあたり、改めて地震の恐ろしさを感じました。被災された方々には心よりお見舞い申しあげます。

天皇皇后両陛下に於かれましても、震災直後より新年の式典で、被災された方々に哀悼の意を示されたのを始め、天皇誕生日にも、お見舞いをのべられました。又、三月と四月には石川県にご訪問され、避難所に身を寄せていた人にお見舞いのお言葉をかけられ、災害対応に当たった関係者をも労わられました。常に国民に寄り添う皇室の姿を有りがたく感じ感謝の念に堪えません。

さて、伊勢の神宮では、四月九日久邇朝尊大宮司は神宮司庁で記者会見し、二十年に一度、社殿などを造り替える式年遷宮について、天皇陛下から「御聴許（ごちようきよ）」を受けたと発表しました。天皇陛下の許しを得たことにより、令和十五年の「第六十三回式年遷宮」に向け九年かけて準備が進められることとなります。今後遷宮に伴う神事や行事が予定されており、最初の神事として、御用材の伐採作業の安全を祈る「山口祭」が来年行われ、令和八、九年には市民らが御用材を神域に運び入れる「御木曳行事」が行われることとなります。今後、皆様のご協力を切に願う次第です。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたし、御挨拶とさせていただきます。

祭事報告

▼年越大祓

十二月三十日

皆様が一年の下半期に知らず知らずの内に受け犯した罪・穢れを託した人形を、お焚き上げ致しました。

ありがたい事に、昨年よりも参列される方が多くお見えになり、少しずつですがコロナ前の様子に戻りつつ有る事を実感しております。

▼元旦祭

一月一日

一月一日午前零時、御神前にて肅々と齋行致し、国の隆昌と世界の恒久平和を願いました。



〈元旦祭〉

▼左義長

一月十五日



〈左義長の火炉〉

昨年一年間お護り戴きました御神符や御守・縁起物また注連縄や正月飾りを、感謝の祈りと共にお焚き上げ致しました。

本年も氏子の皆様が、古神札などの仕分け作業を手伝って下さり、予定通りに昼頃には終了する事が出来ました。

▼浄火祭

二月三日

本年は、土曜日と重なり天候も良く、コロナ禍以来、久しぶりに多くの参拝者の見守る中で神事が齋行できました。本年は、氏子区域にお住まい

で、厄年にあたる四名の男性が厄男として奉仕して下さいました。厄男の皆様は、慣れない姿勢と草履に加え、多くの参拝者の眼差しに、緊張の面持ちで金幣串や絵馬に書かれたお名前を読み上げながら、火炉へと投げ入れておられました。

また、この日に限り帽子の焚き上げが可能と言う事も有り、ご参列の多くの方が帽子をご持参され、神事終了後にはたくさん帽子を焚き上げされました。



〈浄火祭〉

▼祈年祭

二月十一日

祈年祭は例祭・新嘗祭と並ぶ重要なお祭りの一つとして、古来より行われてきました。

今年の五穀(米・麦・粟・豆・稗)豊穰を祈ると共に、ありとあらゆる産業の発展、そして皇室・国家の安泰を願い滞りなく齋行致しました。

▼鍬山神社例祭

三月十七日

当社の境内社として本殿の北東に鎮座し、豊受大神をお祀りしております鍬山神社の例祭を、齋行致しました。



〈浄火祭 (神事終了後)〉

▼例大祭

四月二日

当日は、桜もほぼ満開で、天候にも恵まれ、正に例大祭日和。昨年の例大祭では行事内容を通常（コロナ前）に戻し、子供打ち囃子が奉納されましたが、本年は更に子供神輿の渡御も復活しました。

朝一番に発輿祭が執り行われ、元氣いっぱいの子供神輿が町内を巡り、賑々しい例大祭の始まりです。



〈発輿祭〉

午後三時、岐阜県神社庁副庁長を献幣史にお迎えし、例大祭の神事が執り行われ、恙無く納める事が出来ました。

夕刻、境内に掲げられた提灯に火が灯され、氏子区域内から当神社へ向ってくる子供たちの奏でる、笛や太鼓の音色が徐々



〈夜の境内〉

に大きく聞こえてきます。そして十九時頃、境内に到着した子供たちが、拝殿前にて子供打ち囃子の奉納を行い、本年の例大祭の行事は全て終了しました。

コロナにより、神輿も打ち囃子も知らない子供等が増え、心配していましたが、本年は数多くの子供たちが参加してくれ、真剣ながらも楽しそうに例大祭に関わってくれました。来年以降もこの行事・伝統が引き継がれ、末永く残ることを期待したいと思います。

▼南宮神社例祭

五月四日

本殿の相殿社として御鎮座しております南宮神社の例祭を、恙無く斎行致しました。

▼お田植祭

六月十一日

境内に作られた神饌田前にて神事が斎行され、神事後には宮司により早苗の植え付けが無事に行われました。

尚、この苗は神職たちが大切に育て、今年の新嘗祭（十一月二十三日）にご神前にお供え致します。

▼農休祭

六月十六日

農休祭は、この地方で六月中旬から七月上旬に掛けて多く見られる神事で、田植えが無事に済んだ事への感謝をすると共に、稲が悪天候や害虫被害に遭わず、立派に成長する事を願う神事です。氏子総代等がご参列のもと、滞りなく斎行致しました。

▼月次祭

毎月一日・二十日に恙無く執り行いました。

※一月一日は元旦祭が斎行されるため、月次祭は行われませんでした。

ご奉納頂きました

▽令和六年三月、海津市の中村とみ子様より賜りましたご寄付により、和室三部屋の畳を新調し、和室全ての襖の修理・張替えをさせて頂きました。和室三部屋は四月二日の例大祭で、献幣史や助勤神職・楽人等の部屋として使っており、新畳の香り芳しい部屋で、お持て成し出来ました。



〈新畳と襖〉

この場をお借り致しまして、篤く御礼申し上げます。

『穢れと御祓い』

神社で神主が大麻を振って祝詞を上げて拜んでくれる。

お祓いと聞くと悪い浮かべるのはそんな光景ではないでしょうか？

普段の生活とかけ離れた非日常的なイメージを持たれているかもしれませんが。

しかし、ある意味普段のお掃除と大変良く似ている所が在ります。

お掃除ではゴミや埃などの汚れといった【不浄】を払います。清浄な空間での生活ならば、病気など感染リスクも下がることはよく知られています。

では、お祓いでは何を祓っているのでしょうか。それは穢れです。「汚れ」と言う漢字には、ケガレと云う読み方も在るため、ややこしく成りますが、その違いを例えるなら、下水を汲んだコップは、綺麗に洗って消毒をしても、それで水を飲む事に抵抗を覚えます。

汚れは、掃除で落とせても、穢れは人の手では簡単に取り除くことは出来ないのです。では、その目には見えない穢れとはどのような物なのでしょう。

諸説有りますが、穢れの語源は「氣枯れだ」といいます。気持ち枯れてしまう。落ち込んだり、氣力が衰える、又、憂鬱になる状態を「ケガレた」と言ったと有ります。

朝、家を出る時、いきなり雨が降り出せば、気分が下がります。街で買物を楽しんでいる時、見ず知らずの人がお店の店員さんに怒鳴り声をあげているのに遭遇すれば、楽しさは半減してしまいます。汚れたベンチや壁の落書きを見て不快に感じられるかも知れません。道中、悲惨な交通事故を目撃すれば、非常に後味の悪い思いが残ります。そのようなことが度重なれば、外出自体に嫌悪を抱くように成るかも知れません。自身には何の非もなく避けようも無いことで、日々穢れは溜まっていきます。

体の汚は落とせても、心に蓄積された穢れは簡単には消せません。自身にとつての良くない事は、云うに及ばず他人の不幸も含め気持ちが悪くなる、不愉快な気になる、元気がなくなるそれらが体の不調に繋がったり、邪な思いに支配されてしまいます。それらのマガゴトを避けるための「おまじない」を聞いたことがあるでしょう。新品の靴をおろ

す前に、靴底に墨を塗ったり、トイレに持ち込んだりすると言う類の物です。

新品を既に汚れた物、古い物にしてしまう事で魔の進入を防ぐというのです。新品で無いので靴を汚してしまっても、それは細事だと云うことです。

それでも、避けることの出来なかつた穢れは、神様に清めていただき、元氣を取り戻すのが、お祓いです。年に二度、夏越の大祓い、年越の大祓いというお祭りが各地の神社で行われております。

溜まった罪・穢れを能動的・積極的に祓い、誰しもが少なからず心に抱えている重荷から解放される事で、魂が軽くなり、新しい飛躍に繋がる事でしょう。お祓いはただの迷信では無く、行事や物への意味付けに、われわれ日本人の感性や自然観、神仏への畏怖が詰まっているのです。



〈穢れと御祓い〉

御首神社ホームページ
神職への質問Q&A

問 神棚が古いので新しい神棚に替えたいと考えています。取替方法や古い神棚の撤去はどうしたら良いですか？

答 神棚を新しくされる場合は、お近くの神社へ相談し、古い神棚への感謝と共に、新しい神棚設置のお祓いを受けられる事をお勧めいたします。また、取り替えた後の古い神棚は左義長でお焚き上げすると良いでしょう。
纏め リフォームを機に神棚も新しくしたいと言うご相談を受けることが多々ございます。新しい神棚、新しい気持ちで神様をお祀りになられる事はとても良いと思います。そこで出てくるのは、古い神棚の処分です。取り外しに関するお祓いをお受け頂いた後の神棚は、当社では左義長の他に、焼納感謝祈禱にてお焚き上げ致しております。焼納感謝祈禱に関するご質問は、お電話などでお問い合わせください。

祭事案内

▼西宮神社例祭

七月十七日

商売繁盛や事業繁栄の御神徳
があります。蛭子命をお祀りする
西宮神社の例祭です。

▼末廣稻荷神社例祭

八月四日

京都の伏見稻荷大社より御分
霊を賜り、宇迦之御魂神をお祀
りしております。末廣稻荷神社の
例祭です。

例祭当日は、末廣稻荷神社の
参道に氏子の子供たちが描いて
くれた絵を行燈にして掲げ、夕
方には火を灯します。



〈末廣稻荷神社〉

▼夏越大祓

八月四日



〈茅の輪〉

当社では毎年夏に行われる神
事で、皆様が半年間の内に知ら
ず知らずに受け犯している罪・
穢れを人形（ひとがた）に託し
てお焚き上げし、残りの半年を
無事健康に暮らせませすよう願
います。

神事は、末廣稻荷神社例祭終
了後に、境内の遥拝所前（車のお
祓いをする所）にて斎行され
ます。神事の後に「茅の輪くぐ
り」が行われ、ご参列の皆様は
神職に続いて茅の輪くぐりをし
て頂きます。

茅の輪くぐりは、当日の日没
までご参加頂けます。皆様揃っ
てご参拝下さい。

夏越大祓へのお申し込み方法は、
人形に氏名と生年月日を記入し、
身体をなでて、息を吹きかけて下
さい。人形は一人一枚となります
ので、不足の際は各自ご奉製下
さい。

尚、人形と申込封筒は社頭にご
用意致しておりますので、必要
事項をご記入になり、申込封
筒にお志しと共に納め、社務所
にお申し込み下さい。

尚、ご不明の点は社務所にて
お尋ね下さい。



〈左：人形・右：申込封筒〉

※封筒のデザインは変わる場合があります

▼神明神社例祭

十月十七日

当社の境内社として本殿の北
西に鎮座し、天照大神をお祀り
する神明神社の例祭です。

崇敬会入会のご案内

本会は、「古来首より上の諸病を憂うる者此の社に願えば
靈験あらたか：：」と伝わりし御首神社の御神徳に感謝し、ご家族の諸病平癒・無
病息災・家内安全生業繁栄並びに子孫繁栄を願う崇敬者の会として設立されました。

入会を望まれます方は、社務所までご一報下さい。早々に案内資料をご用意させて頂
きます。

会員の特典（抜粋）

- ・入会報告祭の実施
- ・誕生特別祈禱の実施
- ・及び祈禱神符の授与
- ・主要祭典のご案内
- ・昇殿参拝

会員の種類と年会費

個人	三千元
家族	五千元
特別	一万円
法人	二万円
名誉	三万円

〈お問い合わせ先〉

神社社務所まで
〇五八四一九一―三七〇〇

祭事案内

▼七五三

十月

三歳・五歳・七歳と言う成長の節目に神社に参拝し、これまでの無事成長を感謝し、これから先の健やかな成長を願うものです。

その昔、男児女兒ともに髪を剃る習慣があつたとされ、三歳になると髪を伸ばし始める歳と定め、三歳の七五三を「髪置きの儀」と呼びます。

また、五歳は男の子が袴を履き始める歳として、五歳の七五三を「袴着の義」と言います。



令和6年 七五三

7歳	数え歳	満年齢
	平成 30年 生まれ	平成 29年 生まれ
5歳	令和 2年 生まれ	令和 元年 生まれ
	令和 4年 生まれ	令和 3年 生まれ

そして、七歳は女の子が子供用の帯から大人の帯を締め始める歳になるため、七歳の七五三を「帯解きの儀」と呼ぶようになったと伝わっております。

お祝いの年齢は古くから数え歳でありましたが、現在では満年齢で数えられる方も沢山お見えます。また、男女共に三歳・五歳・七歳でお参りされる方も増えてまいりました。

記載の年齢表をご参考の上、ご都合に合わせてご家族皆様で是非とも当社へご参拝下さい。尚、七五三のご祈禱は十月から年末にかけて随時お仕えいたしております。(予約不要)

▼崇敬会大祭

十一月三日

年に一度、当社崇敬会会員の皆様の無病息災・家内安全・生業繁栄・子孫繁栄を願い行われます。当日は、県内外より多くの会員の方が集まり、会員皆様それぞれ交流を深めておられます。

また、ご参列の会員の皆様には大祭祈禱神符が授与されます。(一家族一体授与)

▼新嘗祭

十一月二十三日

例祭・祈年祭と並ぶ三大祭の一つとして、古より大切な神事として行われて来りました。

その年の五穀豊穰への感謝を申し上げ、初物を神様に食して頂き、皇室のご安泰、国家の安寧を願います。

また、境内の神饌田にて収穫された御初穂もご神前にお供え致します。

▼月次祭

毎月一日・二十日

末廣稻荷神社 参道幟 募集中

境内東に鎮座する、末廣稻荷神社の参道脇に立ち並ぶ朱色の幟旗は、末廣稻荷神社の八月の例祭とお正月に合せて新調し、約半年間に亘り参道に掲げられます。



八月取替予定の幟の申込にはまだ余裕がございますので、奉納ご希望の方は社務所までお申込下さい。

*幟一対 初穂料 三千元

編集後記

今回の表紙は「オオスカシバ」です。写真の腕が無く上手く撮れませんでした。透明な羽と体のふわふわ感が可愛いので好きな一種です。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の二
Eメール nyamusyo@mikubi.or.jp
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇